

精力的執筆 地域に光

愛媛出版文化賞 6作品表彰

愛媛ゆかりの優れた書籍を顕彰する「第39回愛媛出版文化賞」の贈呈式が29日、松山市大手町1丁目の愛媛新聞社であり、地域の歴史や文化に目を向け、精力的に執筆された6作品の著者らに表彰状が贈られた。

(2面に関連記事)

賞は県内在住者の著書や愛媛ゆかりの作品が対象。愛媛新聞社が1985年に

創設し、公益信託愛媛出版文化賞基金と同社が主催する。「研究・評論」「美術」「文学」その他文化全般」の4部門があり、今回は応募のあった54点から部門賞と奨励賞計6点を選んだ。大賞は該当作品がなかった。式には受賞者や県内の出版・印刷各社の関係者ら約40人が出席した。基金運営委員長で愛媛新聞社の土居英雄社長が受賞者一人一人に表彰状を手渡し「選ばれた作品は質の高さとともに、地域の文化発展に貢献する力作。愛媛の文化振興のけん引役として、ますます

すの活躍を期待している」とあいさつした。

受賞者を代表し「続 市之川鉦山物語」で「研究・評論」部門の部門賞に輝いた、埼玉医科大特任教授の田辺一郎さん(66)は同鉦山について、鉦物の美しさや採掘量の知名度に加え、さまざまな人物や世界とつながりがあると紹介した。約30年に及ぶ調査研究が「このような形で認められ大変うれしい。若い世代の研究の励みにもなれば」と述べた。

(小田良輔)



愛媛出版文化賞の部門賞に輝き、表彰状を受け取る田辺一郎さん(右)

—29日午後、松山市大手町1丁目